



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

C Y M

© Kodak, 2007 TM Kodak

津宗護國篇

卷之二
平假字

淨宗護國篇序

夫佛の法は天下をたすけしむる
徳ありしに由りて是れ護國を天下を
つとむるに由りて

又命今我皇と云ふを以て世を司
護するに由りて是れ護國を天下を
つとむるに由りて
上人登堂上之親習也
三人此為僧
清毛淨宗
山とかなるに由りて是れ護國を天下を
つとむるに由りて

神家の遠祖に此家系といふ世ありて此家の
神は 廣徳天皇と云ふなりと云ふ

東照大神君といふは神皇正統記に云ふに
ひく。神皇正統記に云ふに。天武天皇の御代に
ませありて 神皇正統記に云ふに。

此の神皇正統記に云ふに。天武天皇の御代に
此の神皇正統記に云ふに。天武天皇の御代に
の御代に云ふに。神皇正統記に云ふに。
こころに云ふに。神皇正統記に云ふに。

神皇正統記に云ふに。神皇正統記に云ふに。

神皇正統記に云ふに。神皇正統記に云ふに。

神皇正統記に云ふに。神皇正統記に云ふに。

神皇正統記に云ふに。神皇正統記に云ふに。

神皇正統記に云ふに。神皇正統記に云ふに。

くまひす。はる成は三人の足は。神先祖を

水原依小形りて親又勅のりまき一誠能依採

あひ一也人そ一。まき一初小ひる思成上入

神志のまき一誠親志成勅のりまき。次は登登上入

親初國師ふいてい

神君ふあ一とまきと信入一なる。信は

は三人乃智れ勅のりまき一初成のりまき

神君の神信ふよせと推一ささすづこふと

はる程ま原かひり一梅登成底上入の遷化を

うそゆりま。正徳二〇ふいてりて百九十七年。その

次登登上入。彼上入も六十三年の末して正徳

二〇よむりて。百五十九年不及り。又其後

國師の遷化は百五十六年。其後を初

師一也の初師傳記かふして。正徳初世ふり

らす。志うあまひみ。まき乃初師傳記かふして。正徳初世ふり

まき。まき乃初師傳記かふして。正徳初世ふり

まき乃初師傳記かふして。正徳初世ふり

まき乃初師傳記かふして。正徳初世ふり

寸忠の草、身の解所、まに安事ありし。こゝに
 武州に府増上寺の法主顯善大僧正、この傳記を
 明卷上人より傳く傳抄、といはせり。拙その
 傳、未らう、を爲りに明卷上人、是後國師、此門
 業、傳波和爲、よゆらる。ゆまに、まきりし。心統、
 して、文、又容易かき、事、才、能、拙、分、後、尚、も、之、元
 乃、前、在、意、し、堂、主、親、後、傳、之、傳、正、より、親、く、あ、ま、を、し
 之、能、授、あ、る、事、二、度、せ、る。世、を、以、て、被、せ、乃、記、傳、
 せ、り。考、こゝ、も、傳、去、乃、教、向、法、を、之、爲、も、方、丈、に

あり、
 一、多、り。
 所、爲、家、乃、中、納、當、河、法、師、佛、乃、傳、來、終、り、之、來、る。拙
 手、撰、編、い、ち、り、て、上、列、を、傳、大、信、乃、傳、之、良、信
 師、之、宗、と、是、後、な、せ、る。又、又、死、之、文、を、之、云、れ
 兼、法、師、傳、一、く、な、せ、る。雅、波、ぬ、ふ、ら、石、源、一、き、
 法、泉、乃、柯、然、上、之、り、か、て、書、か、り、う、い、号、て、傳
 宗、儀、國、爲、と、せ、り。或、入、乃、甲、さ、く、叔、若、後、小、を、お、て、
 唯、教、後、撰、續、一、衆、生、を、和、ら、る。清、法、あ、り、念、佛
 淨、土、の、法、も、被、傳、ふ、い、う、と、書、わ、る。之、我、の、ま、よ

いづれぞとていり。そと暮小回。こまおの。經小回。
 天不^レ和順^レ日月^レ清明^レ風^レ動^レ時^レ災^レ屠^レ不^レ起^レ國^レ豐^レ安^レ民
 こまおんを念^レ佛^レま^レ切^レを傷^レ入^レる^レ體^レふ^レあ^レす^レ
 折^レ又^レ是^レ下^レに^レい^レる^レ殺^レる^レ吾^レい^レ可^レ必^レ治^レ公^レの^レ名^レ不^レ備
 具^レた^レり。所^レま^レ此^レ法^レふ^レより^レて^レ感^レ有^レ以^レ與^レた^レめ
 一^レ地^レ乃^レ至^レ中^レ華^レ也^レ。然^レ果^レ不^レ以^レて^レ教^レぬ
 母^レと^レ計^レる^レに^レ勝^レか^レ。春^レ舟^レを^レ考^レへ^レは^レ吾^レ云^レと
 勝^レす^レと^レ辨^レ知^レる^レべ^レと^レなる

淨宗護國篇卷之一

三河^ノ國^ノ魏^ノ郡^ノ滅^ノ道^ノ山^ノ松^ノ安^ノ院^ノ大^ノ樹^ノ寺^ノ岡^ノ山

勢^ノ卷^ノ底^ノ大^ノ和^ノ尚^ノ傳

和^ノ尚^ノ津^ノ也^ノ唐^ノ真^ノ運^ノ社^ノ勢^ノ卷^ノと^レい^レり。そ^レ運^ノ生^ノは^レ比^ノ今^ノ
 乃^レ東^ノ牟^ノ末^ノ城^ノなり^レ但^レ父^ノ法^ノ名^ノ氏^ノ程^ノ姓^ノなり^レと^レい^レは^レし^レ
 傳^ノ記^ノ見^ノえ^レと^レい^レは^レし^レる^レなり^レ所^レ折^ノこ^ノの^レ父母^ノ無^ノ背^ノの^レ所^ノ
 有^レと^レい^レり。月^ノ夜^ノ後^ノと^レい^レは^レし^レる^レなり^レと^レい^レは^レし^レる^レなり^レ
 實^ノ也^ノなり^レと^レい^レは^レし^レる^レなり^レと^レい^レは^レし^レる^レなり^レと^レい^レは^レし^レる^レなり^レ
 な^レれ^レた^レなり^レと^レい^レは^レし^レる^レなり^レと^レい^レは^レし^レる^レなり^レと^レい^レは^レし^レる^レなり^レ

縁成^よも^は此^{この}處^{ところ}也^{なり}宗^{そう}祖^そ上人^{にん}是^{こゝに}在^あり^て今^{いま}變^かり^て

 い^らな^しむ^かへ^りり^しむ^かへ^りり^しむ^かへ^りり^しむ^かへ^りり^しむ^かへ^りり^しむ^かへ^りり^しむ^かへ^りり^し

 何^{なに}も^もく^く世^よ國^{くに}一^{いつ}國^{くに}縁^{えん}や^やお^おや^やと^と之^{これ}國^{くに}法^{はふ}の^の

 う^うち^ち宗^{そう}祖^そ教^{きやう}の^の何^{なに}法^{はふ}法^{はふ}論^{ろん}と^とい^いふ^ふも^もう^うと^とい^いふ^ふも^も

 盛^{さか}へ^へす^すめ^めが^がた^たり^りと^とは^は法^{はふ}論^{ろん}と^とい^いふ^ふも^もう^うと^とい^いふ^ふも^も

 と^とい^いふ^ふも^もう^うと^とい^いふ^ふも^もう^うと^とい^いふ^ふも^もう^うと^とい^いふ^ふも^も

 初^{はつ}化^け説^{せつ}は^はど^{どこ}り^り此^{こゝに}所^{ところ}の^の因^{いん}縁^{えん}要^{よう}請^{じやう}を^をま^ま身^{しん}志^しを^をく^く

 比^ひ彼^か地^ちを^を城^{じやう}之^の要^{よう}請^{じやう}之^の教^{きやう}親^{しん}也^{なり}と^とい^いふ^ふも^も

 先^ま君^{きみ}親^{しん}氏^し公^{こう}乃^の二^に男^{おとこ}少^{すくな}く^くゆ^ゆり^りと^とい^いふ^ふも^も

の^の教^{きやう}也^{なり}り^り市^{いち}邊^{へん}上人^{にん}是^{こゝに}在^あり^て今^{いま}變^かり^て

 通^{とほ}り^り遠^{とほ}き^きか^かり^りと^とい^いふ^ふも^もう^うと^とい^いふ^ふも^も

 徒^たに^たい^いき^きり^りと^とい^いふ^ふも^もう^うと^とい^いふ^ふも^も

 吾^{われ}も^も法^{はふ}を^を極^{きよく}つ^つと^とい^いふ^ふも^もう^うと^とい^いふ^ふも^も

 を^を演^{えん}じ^じは^はま^まん^んく^くと^とい^いふ^ふも^もう^うと^とい^いふ^ふも^も

 せ^せふ^ふと^とい^いふ^ふも^もう^うと^とい^いふ^ふも^も

 其^{その}法^{はふ}を^を因^{いん}縁^{えん}を^を始^{はじめ}と^とい^いふ^ふも^もう^うと^とい^いふ^ふも^も

 法^{はふ}と^とい^いふ^ふも^もう^うと^とい^いふ^ふも^も

 其^{その}法^{はふ}を^を因^{いん}縁^{えん}を^を始^{はじめ}と^とい^いふ^ふも^もう^うと^とい^いふ^ふも^も

お初め〜

御商家打はるもく。空集ふりて流る盛勝かりりるも
 ちを時く上人取立ては乃同局さ〜に或時公上人
 始るぬつ流ゆり、丈仙住の要爰といひに生念おりぬ
 乃一かぎり、尺也。地々小豆下乃教化、世人痛此奈州と
 名因り、ゆ終り候やう時、先勿とらへかり。又或士此業
 ち〜〜〜戦場、むむ付、その死か人、事子候と類
 ぶ。物々候も場、のづとながら、此世、いふ幻れは、い
 只未生〜う節、安かんと。主佛、ふのち勿後、〜一始

そ〜ん、い、た、ち、あ、ろ、う、を、く、れ、候、さ、り、て、敵、は、り
 こにせ〜ま、か、ん、是、只、さ、ら、う、〜、死、候、は、さ、ら、う、〜、
 わ、い、ち、や、ま、ろ、あ、ん、ふ、ち、後、悔、無、の、名、を、ゆ、る、の、に、わ
 ず、子、孫、は、さ、ら、い、た、又、い、た、は、ふ、ち、候、お、れ、心、を、と、さ、ら、
 ち、く、り、か、り、ぬ、又、を、ら、ま、は、さ、ら、う、〜、敵、の、首、と、さ、ん
 こそ、ま、ま、を、乃、過、念、お、ら、へ、〜、ま、か、ま、り、ハ、敵、小、を、勝
 ち、と、悪、業、よ、切、り、終、く、節、来、り、ハ、恩、乃、〜、流、は、
 然、ら、む、お、初、め、ま、又、り、り、武、士、ハ、武、者、乃、を、流、せ、〜、て、さ、
 と、流、ま、小、ま、り、は、や、り、候、と、り、あ、ら、わ、ら、い、ま、と、を、ま、く

如くこのさきひたる上人と刺成はくく融けく
 相と疎隔かる出為くれと信成はくくくた意よりかぬ
 笑をゆくして謹く暮りて終ふせ不肖目此乃徳は教
 他くさう事成志めくゆゆといふく上刻小いさく
 口也と信成安公法道中くあまぬかり此再思乃
 事事家自有不をわて授けり事くも少在わも是則更
 坐座公吾朝と園小まゝく一宗とお傳りて徳師
 法統上人爰中不をわて師の善守和為よく之
 傳へるくを吾家流名元師法徳の智光上之不休く

一より世々の上人と授けりく不肖くありといふ
 を彼人身かべく授けらる件乃れ疑一時よくまうせは
 不乃とがく世師あ公法道志多を傳りて世生疑也
 是く就く古来法盛式ありは乃く七八の世師の初と心
 ら此世師を信り弄戒精進中くして師を信
 念公く授けりく一と云く毎日常城わけてあ公と知
 有まざるくして無戒七日と推極りくかた上人乃れく
 更く多宗と安公法道安あり事第一かめ支附まこと時
 あ公法道くく世修の志なりと此可を授けよそ

ほいをけり。安かへ傳はる成者。是を改めたるを
奉るべし。是れ絶望の事なり。とて死するにせむ。
一切の病生おまをくぬ。とて其を改めたるは
農工商の四つが利をせん。とて世の人を兼けたるは
衣冠の事。命を以てして死に思ふの決意は。その
まゝに。不置の便り。とて世の事。を以てして。人
を。一。民ハ三民を以て。と。民ハ一民を以て。民ハ
にも。其れ合はる。と。法入の。法を。善悪の。法とい。利
中。よを。お。て。是。ハ。是。民の。法。上。が。も。抽。出。す。の。ハ。是

之。所。以。て。善。悪。の。法。を。中。ハ。法。を。以。て。人。ハ。法。を。以。
て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。
て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。
て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。
て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。
て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。
て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。
て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。
て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。
て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。
て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。
て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。
て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。
て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。
て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。て。中。ハ。法。を。以。

元來我族用いし海防了すまはりよハ世に
 以てあはれとて敵と遠治し。昔より今も念仲の御世
 及び御一若討死する人ふ遠く海にいらむと
 思召す。御口ハ志松を稱し。御了敵了むらハせ候
 う。我勇核をさし。たまひ。無度勿成ゆえ。せむ
 乞川安妙史記有り。所れをかり時也。南無阿彌陀佛と
 嘯く。おが成打之。我をそふ。此の神劍了り。とももれ
 登ハさあし。人。此の御魂乃無い。ゆえ。し。く。む。よ
 へ。く。かく皮定ま。人。此の志松も。法の御魂。善薩也

漢志ある。人。此の善薩の武。初織の武を。今。よ。か。え
 する。公。別。善薩。此。武。を。初。せ。む。ん。招。び。し。と。あ。ま。り。の。ま。む
 義。侍。ん。ん。の。水。身。低。り。し。り。の。火。の。輪。に。伏。く。ゆ。く
 此。織。勢。ハ。四。身。了。釋。さ。か。ん。擬。彼。凶。逆。此。策。成。去。つ。所。没。ん
 ぞ。り。よ。我。場。又。向。い。ん。的。海。定。了。お。が。ま。ん。ん。ハ。此。紀
 を。治。め。善。薩。乎。あ。な。ん。説。人。乃。我。族。多。の。為。成。補。り。と
 是。我。才。一。了。ま。あ。ん。次。力。乃。我。族。今。い。ら。う。な。り。自。他
 心。し。く。海。去。才。生。此。唯。遂。同。く。他。乃。之。成。就。せ。ん。又
 形。了。一。な。を。志。佛。の。御。を。極。善。と。稱。り。て。生。死。乃。二。

小をわけて、又よりよとく、なかく、建てる、あは、返して、
 けり、よとく、念、現る、多し、刀を、振く、おくの、生、
 を、裁、断、血、限、心、川、を、介、屍、を、こ、山、は、作、
 こと、是、更、一、魚、新、の、指、龍、あ、何、む、こ、之、聖、仏、前、此、
 為、徳、一、教、お、ま、の、最、な、れ、を、お、此、輩、成、こ、安、徳、
 志、む、る、若、好、く、多、儀、り、持、ま、を、法、を、一、依、據、成、徳、
 け、は、よ、く、佛、号、を、唱、へ、ある、よ、く、お、佛、持、ま、こ、
 仏、名、を、現、し、多、人、是、何、佛、持、の、不、疑、なり、持、ま、を、
 持、ま、を、よ、く、非、業、乃、災、難、お、く、こ、ま、人、お、こ、ま、平、

出、し、一、淨、土、お、包、法、使、し、わ、れ、れ、と、死、罪、業、を、こ、ん、
 ぬ、は、只、業、乃、最、れ、と、持、ま、持、ま、多、人、を、極、め、す、
 さ、せ、ま、持、ま、持、ま、何、人、よ、い、く、か、の、持、ま、初、なり、も、
 持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、
 國、乃、人、法、を、法、律、請、受、為、推、渡、志、ま、か、れ、を、
 持、ま、中、小、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、
 持、ま、持、ま、佛、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、
 持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、
 持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、持、ま、

九ひり何たり。文明七年といひてあり。軍の場
 不行田種一をのて。用ふのなほ一と。た力を合
 勇猛はあまひの勢ありて。機勢ありて。登殿の分
 ちあり。是小徳と。も御ふるはまも。終は。新異
 のものなきなり。公此より。改す。せありて。保をり
 乞ひ。軍死の軍の。幽鬼。志が。在り。と。必べ。是。我
 神の。い。依り。志。と。さ。く。ん。よ。か。そ。し。為。鬼
 上人。信。臣。は。く。是。只。主。の。迷。鬼。の。所。心。成。る。と。あ。り。む
 志。信。臣。は。く。依。り。志。と。さ。く。ん。よ。か。そ。し。為。鬼

が。い。と。も。取。地。よ。を。あ。て。か。り。よ。乃。場。法。を。わ。り。て。神
 くの。僧。の。神。法。つ。経。と。く。一。七。の。り。い。り。て。志。信。臣。は。く
 行。と。さ。く。ん。よ。か。そ。し。為。鬼。の。乃。俗。信。の。学。を。各。く。那。依。り。志。と。さ。く。ん。よ。か。そ。し。為。鬼
 了。志。信。臣。は。く。依。り。志。と。さ。く。ん。よ。か。そ。し。為。鬼。の。乃。俗。信。の。学。を。各。く。那。依。り。志。と。さ。く。ん。よ。か。そ。し。為。鬼
 苦。意。を。も。ね。り。て。法。を。い。ひ。あ。り。ん。を。な。せ。り。と。い。は。く。は。く
 を。り。か。り。あ。ま。り。あ。く。よ。七。日。に。い。り。廻。向。の。言。ふ
 及び。う。も。上。入。衆。を。い。り。て。廻。向。の。文。法。を。な。り
 法。統。り。り。と。動。の。事。は。ら。し。め。り。と。い。は。く。は。く

北清津よりと移りて東をぬきしる親忠公が
 家傳に法身を留まのんを信公が法いやりしめて
 信公の冥藏を信公志多の羅く對極相無のい他が
 不思儀の之伸と傳しやまひしるつめは彼戰場
 を道しるふ信公法建立し一僧坊法執事しかひたり
 公以上人信公の風程とかりしより公作をる信公
 康親公の同家松年より堂控のためは信公法建立の
 父信光公の忠實つし多利ありしは幸を以てし号
 たりし信公のやもなき信つしる吾も又も公を道て

忠實少とさかり。扱吾建立志と人奇号をいり
 名はくたつと上人の同をひひかひ上人かこ傳り
 りをありとやとせ徳記しと樹しきりり公が徳見
 ろしと山号に滅道山後号の松島沈もろの文樹も
 まう号られけろ公つと考へおとすも志て公の
 分の山号沈号いさるるもも号小ありては吾もれを
 もろり抄しりしるぬに折之樹と將軍の別名が小
 うしと山号三洲一重法より信公をくして建立せし
 公はかくがのけをし世への物を拾くは公ありと

信けま。出入の倉よ。一箇の御いさり軍あてひかま
 兼生がしものなり。更よまごうせよ。六つさ書ふ何
 心。おまお軍あてまけあやも何のさふまふさるん。
 不有くけくひつひるも。徳取こそおつ。海いふ。
 山段通より。亦有世縁去。裁さるも。深まふいさるて
 さうつ。雲さく。版をさく。版。扱れ。さく。しん。ん。
 又。目。ま。ま。地。来りて。僧と。政。と。神。家。松。平。氏。は。
 檀。僧。と。かり。家。門。相。續。志。彩。を。持。て。後。も。ん。
 の。内。の。必。下。れ。何。る。さ。さ。る。一。つ。軍。を。給。せ。さ。

松平。板。松。安。三。嗣。一。松。平。乃。御。家。名。相。お。孫。を。も
 ろ。軍。打。く。字。多。う。ん。を。後。せ。かり。さん。を。御。家
 の。御。業。う。て。我。乃。軍。此。大。御。軍。皆。松。平。氏。う。て。い。ま。う
 う。の。人。さ。儀。さ。り。抗。を。ね。み。一。我。母。氏。ま。て。檀。越。の
 ら。さ。る。儀。延。び。なり。て。伐。れ。た。り。に。さ。る。の。檀。越。を。執
 之。由。奉。ま。へ。一。但。此。親。一。殿。意。傳。り。か。や。せ。を。御
 前。家の。一。後。是。廣。い。事。乃。二。似。ころ。た。き。も。さ。り。ま。中
 也。今。今。一。途。の。義。あ。わ。ら。び。ち。て。し。な。は。ま。下。れ。万。民
 を。と。つ。し。て。し。を。此。を。殿。い。や。れ。ら。む。し。一。り。武

是れ親志公此筆創して南無極楽なりと云ふ家つ
 のさう之を筆葉枝をつつる事い偏り、亦有以カ此後
 ありては、たへなり。南無極楽なりと云ふ。何ぞ先程の
 遠くおそれんや。地を吾家筆を代へいりて、
 くびちと筆あべい、おれいよりと、此の紙小紙
 を記し、代の筆式をたへいより、上人此後、
 のさういへい、
 長親公、此の親子あきと、
 いりて、
 長親公、此の親子あきと、
 いりて、

上りのさうを、つわも、
 上りのさうを、つわも、

海柏泉院の、
 東山如愚庵の、
 一りして、
 此の、
 好く、
 七日月、

愛知県図書館



1108186960

183

カン

818696